

研究ノート

## 独居高齢者の生活状況と困りごとについて

大蘭昭博<sup>1</sup>

### Conditions and Concerns in Everyday Life of the Elderly Living Alone

Akihiro OZONO<sup>1</sup>

キーワード 独居高齢者, 生活状況, 困りごと

Keywords: elderly living alone, living conditions, concerns in everyday life

#### 1. はじめに一研究の背景

少子高齢化に伴い、今後日本は2025年にかけて更に高齢化が加速してくる。介護が必要な状態になっても介護が受けられない状況が予測されている。また、独居高齢者等、リスクの高い方々の支援が必要に迫られている状況である。

古川・本間 (2013: 25-26) は、独居高齢者を対象とする調査において、日常生活で困っていることや、困ったときに支えてくれる人について聞いている。日常生活で困っていることに関しては、約6割が「困っていることはない」と回答した。比較的多くの回答があった選択肢は、「自分や家族の病気のこと」「炊事、洗濯、掃除、ゴミの分別やゴミ出しなど身の回りのこと」「生活必需品の買物のこと」などである。古川・本間は「家事等の身の回りのことや買い物については今後加齢が進む中で、更に地域の支援を検討する必要がある」と述べている。

棚橋 (1999: 134) は日常生活の状況を表す指標として、「主に買物する人」と「主に食事を作る人」について聞いている。選択肢には「自分」「自分と人」「自分以外の人」「その他」を設けている。「自分と人」という、人に手伝ってもらう場合の選択肢が含まれている。「自分」および「自分と人」を合わせて、「自分でする人」の割合を求めている。食事作りを自分でする人は、80歳未満の一人暮らし女性では8割以上、80歳以上の一人暮らし女性では約7割、一人暮らし男性では約7割であった。買

物を自分でする人はいずれの群においても5割台であった。棚橋は「一人暮らしになる場合を考えると、男性も食事作りの技術を習得することが必要と思われる」と述べている。

本田ら (2003: 87-88) は、後期高齢者の状況等について次のように述べている。後期高齢者が生活で困っていることの内容は、食事の支度や外出などに加え、経済的な問題や病気のときなど、切実な問題が含まれている。必要なときに適切なサポートを受けられることが後期高齢者の一人暮らしの継続に重要であるため、必要に応じて生活を支えるための公的なサービスにつなげる体制を整備する必要がある。家族や近隣との関わりが乏しい高齢者に対しては、安否確認のための定期的な訪問など公的制度の充実が望まれる。

今後地域で支える仕組みづくりの為に、地域包括ケアの構築が叫ばれている。医療、介護のみならず様々な支援が必要に迫られている。構築することで、いつまでも住み慣れた地域で生活できると思われる。

#### 2. 研究の目的と方法

##### 2.1. 研究目的

本研究は、A県B地域の生活支援ニーズを調査し、高齢者の生活状況を検討することを目的とする。B地域には4市が含まれるが、今回は3市(A市、B市、C市)を対象とした。独居高齢者の生活状況、医療・生活支援に

<sup>1</sup> 891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1 鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科博士前期課程

The International University of Kagoshima Graduate School Welfare Society Master Program, 8-34-1 Sakanoue, Kagoshima 891-0197, Japan  
2018年5月25日受付, 2018年7月20日採録

表1 性別・年齢と要介護度

|    | 総合事業  | 要支援1       | 要支援2        | 要介護1        | 要介護2        | 要介護3        | 要介護4       | 要介護5      | 合計        |               |
|----|-------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-----------|-----------|---------------|
| 男性 | 80歳未満 | 3<br>8.1%  | 8<br>21.6%  | 11<br>29.7% | 3<br>8.1%   | 10<br>27.0% | 1<br>2.7%  | 1<br>2.7% | 0<br>0.0% | 37<br>100.0%  |
|    | 80歳代  | 4<br>11.4% | 9<br>25.7%  | 6<br>17.1%  | 8<br>22.9%  | 3<br>8.6%   | 4<br>11.4% | 0<br>0.0% | 1<br>2.9% | 35<br>100.0%  |
|    | 90歳以上 | 2<br>7.7%  | 9<br>34.6%  | 6<br>23.1%  | 4<br>15.4%  | 4<br>15.4%  | 1<br>3.8%  | 0<br>0.0% | 0<br>0.0% | 26<br>100.0%  |
|    | 合計    | 9<br>9.2%  | 26<br>26.5% | 23<br>23.5% | 15<br>15.3% | 17<br>17.3% | 6<br>6.1%  | 1<br>1.0% | 1<br>1.0% | 98<br>100.0%  |
| 女性 | 80歳未満 | 0<br>0.0%  | 2<br>8.3%   | 3<br>12.5%  | 11<br>45.8% | 8<br>33.3%  | 0<br>0.0%  | 0<br>0.0% | 0<br>0.0% | 24<br>100.0%  |
|    | 80歳代  | 7<br>5.1%  | 18<br>13.2% | 25<br>18.4% | 55<br>40.4% | 21<br>15.4% | 7<br>5.1%  | 3<br>2.2% | 0<br>0.0% | 136<br>100.0% |
|    | 90歳以上 | 5<br>8.6%  | 5<br>8.6%   | 10<br>17.2% | 18<br>31.0% | 10<br>17.2% | 8<br>13.8% | 2<br>3.4% | 0<br>0.0% | 58<br>100.0%  |
|    | 合計    | 12<br>5.5% | 25<br>11.5% | 38<br>17.4% | 84<br>38.5% | 39<br>17.9% | 15<br>6.9% | 5<br>2.3% | 0<br>0.0% | 218<br>100.0% |

ついて明らかにし、今後の支援のあり方について考察する。

## 2.2. 研究方法・調査内容

B地域における居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの介護支援専門員に協力を依頼した。本人を特定しうる情報を含まない調査票を作成し、独居高齢者に関して介護支援専門員に記入してもらった。データの集計にはSPSSバージョン16.0並びにエクセル統計2016を使用した。

調査内容としては、基本的属性、治療中の疾患、支えあいの現状、通院において負担となること、買物の困りごと、日常で困っていること、不安なこと等が含まれる。なお調査票については、大園・中山(2017)による既存研究の検討のほか、鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科(2017)による調査票も参考に作成した。

## 2.3. 倫理的配慮

質問紙ごとに研究協力のお願ひ、研究の趣旨や活用方法等について明記した。また、口頭でも説明し、協力の同意を得た。データの入力と分析においては、事業所名や地域が特定されないよう配慮した。なお、本調査は2017年に鹿児島国際大学教育研究倫理審査委員会からの承認を得たうえで実施した。

## 3. 調査対象者の概要

調査票の記入がなされた対象者数は、男性98名、女性222名、計320名であった。年齢の記入があった319名を、3カテゴリーに分けた結果、80歳代が173名、90歳以上85名、80歳未満61名であった。平均年齢は、84.9歳であった。居住地別では、A市131名、B市97名、C市91名であった(N=319)。

要介護度は、総合事業対象者21名、要支援1は51名、要支援2は61名、要介護1は99名、要介護2は56名であり、総合事業対象者から要介護2までが9割以上を占めていた(N=316)。男女別では、女性と比べて男性では、要支援1、要支援2の割合が比較的高く、女性では要介護1以上の割合が比較的高い(表1)。

障害高齢者自立度を、自立～J2、A1～A2、B1～C2の3カテゴリーに分けて分析すると、A1～A2の対象者が160名と最も多かった。以下、自立～J2が131名、B1～C2が21名という順であった(N=312)。認知症高齢者自立度を、自立～I、II a～II b、III a～IV及びMの3カテゴリーに分けて分析すると、自立～Iの対象者が177名と最も多かった。以下、II a～II bが106名、III a～IV及びMが27名という順であった(N=310)。

現在の治療中の疾患は、高血圧・心臓循環器疾患が5割以上と比率が高く、成人病疾患が比較的多かった。また、複数の疾患を抱えながら生活されている実態が浮き彫りになった(表2)。

地域において現在受けている支援としては、男女共通して「機会を作っての安否確認」が多く、年齢を増すごとに「ゆっくり話しながらの話し相手」が多い傾向である。80歳未満の男性では「機会を作っての安否確認」が40%、80歳代の男性では「暮らしぶりを観察する見守り」が51.6%、90歳以上の男性では「機会を作っての安否確認」が47.8%と高い割合を占めていた。80歳未満の女性では「さりげない暮らしの手伝い」が50%、80歳代の女性では「機会を作っての安否確認」44.2%、90歳以上の女性では「暮らしぶりを観察する見守り」が42%と高い割合を示していた(表3)。

また、地域の良いところ、住みやすさについて記入し

表2 性別・年齢と現在治療中の疾患（多重回答）

|    | 高血圧・心臓循環器 | 腰痛           | 肝臓・腎臓       | 白内障眼疾患     | その他        | 特になし         | 全体        |     |
|----|-----------|--------------|-------------|------------|------------|--------------|-----------|-----|
| 男性 | 80歳未満     | 19<br>52.8%  | 6<br>16.7%  | 0<br>0.0%  | 3<br>8.3%  | 28<br>77.8%  | 3<br>8.3% | 36  |
|    | 80歳代      | 23<br>65.7%  | 6<br>17.1%  | 3<br>8.6%  | 4<br>11.4% | 23<br>65.7%  | 0<br>0.0% | 35  |
|    | 90歳以上     | 19<br>73.1%  | 10<br>38.5% | 3<br>11.5% | 1<br>3.8%  | 14<br>53.8%  | 1<br>3.8% | 26  |
|    | 合計        | 61<br>62.9%  | 22<br>22.7% | 6<br>6.2%  | 8<br>8.2%  | 65<br>67.0%  | 4<br>4.1% | 97  |
| 女性 | 80歳未満     | 14<br>60.9%  | 7<br>30.4%  | 2<br>8.7%  | 1<br>4.3%  | 18<br>78.3%  | 1<br>4.3% | 23  |
|    | 80歳代      | 91<br>65.9%  | 47<br>34.1% | 7<br>5.1%  | 13<br>9.4% | 96<br>69.6%  | 5<br>3.6% | 57  |
|    | 90歳以上     | 45<br>78.9%  | 22<br>38.6% | 3<br>5.3%  | 7<br>12.3% | 22<br>38.6%  | 1<br>1.8% | 26  |
|    | 合計        | 150<br>68.8% | 76<br>34.9% | 12<br>5.5% | 21<br>9.6% | 136<br>62.4% | 7<br>3.2% | 218 |

表3 性別・年齢と現在受けている地域支援（多重回答）

|    | 暮らしぶりを観察する見守り | 出合いを活かした声かけ | 機会を作ったの安否確認 | ゆっくり過ごしながらの話し相手 | さりげない暮らしの手伝い | その他         | 特になし       | 全体          |     |
|----|---------------|-------------|-------------|-----------------|--------------|-------------|------------|-------------|-----|
| 男性 | 80歳未満         | 5<br>16.7%  | 5<br>16.7%  | 12<br>40.0%     | 6<br>20.0%   | 10<br>33.3% | 4<br>13.3% | 30          |     |
|    | 80歳代          | 16<br>51.6% | 3<br>9.7%   | 12<br>38.7%     | 8<br>25.8%   | 9<br>29.0%  | 3<br>9.7%  | 31          |     |
|    | 90歳以上         | 10<br>43.5% | 3<br>13.0%  | 11<br>47.8%     | 7<br>30.4%   | 4<br>17.4%  | 2<br>8.7%  | 23          |     |
|    | 合計            | 31<br>36.9% | 11<br>13.1% | 35<br>41.7%     | 21<br>25.0%  | 23<br>27.4% | 9<br>10.7% | 9<br>10.7%  | 84  |
| 女性 | 80歳未満         | 7<br>31.8%  | 2<br>9.1%   | 7<br>31.8%      | 3<br>13.6%   | 11<br>50.0% | 1<br>4.5%  | 5<br>22.7%  | 22  |
|    | 80歳代          | 38<br>31.7% | 25<br>20.8% | 53<br>44.2%     | 32<br>26.7%  | 38<br>31.7% | 6<br>5.0%  | 17<br>14.2% | 50  |
|    | 90歳以上         | 21<br>42.0% | 7<br>14.0%  | 15<br>30.0%     | 13<br>26.0%  | 17<br>34.0% | 2<br>4.0%  | 10<br>20.0% | 26  |
|    | 合計            | 66<br>34.4% | 34<br>17.7% | 75<br>39.1%     | 48<br>25.0%  | 66<br>34.4% | 9<br>4.7%  | 32<br>16.7% | 192 |

てもらったところ、「近所の方が気にかけてくれ、何かあれば様子を見に来てくれる」や、「ゴミ出しの時に、気づいた近所の人が手伝ってくれる」等の記述があった。また、主に女性の対象者に関して、「昔から隣人、知人がよく来訪してくれ、おしゃべりを楽しみ可能な頼み事は心良く対応してくれる。困った時、TELで連絡できる隣人が数人いる（原文のまま）」等、社会性が感じられる記述がみられた。このような記述からも、性別、年齢に応じた支援の必要性が示唆される。

#### 4. 日常の困りごと

日頃から高齢者に寄り添っている介護支援専門員に、本人の気持ちを代弁するかたちで日常の困りごと等に記入してもらった。

通院状況については、月1回受診が、全体の63.8%を占めていた。また、通院範囲は居住する市内が82.2%と

多かった。通院負担については、80歳未満に限定すると、「通院支援してくれる介護者がいない」が男性で47.2%、女性で39.1%と他の年齢層に比べて比率が高かった。また、男性では、「交通手段の不便さ」が年齢を問わず多い傾向にあった（表4）。

買物の困りごとについては、男性では年齢を問わず「場所が遠い」との回答が多く、女性では年齢を問わず「交通手段がない」の割合が多い（表5）。

男性の場合、通院における負担として、「交通手段の不便さ」の割合が高く、買物の困りごととしては、「場所が遠い」の割合が高い。このことは男性の場合には、自動車の運転をしていた人が多く、年齢とともに運転が出来なくなり、移動の不便さを感じる人が多いという事情があるのではないと思われる。

本人が日常で困っていることとしては、男性の場合、80歳未満では「食事の支度」54.1%、「買物」「外出」

表4 性別・年齢と通院における負担（多重回答）

|       | 交通手段が不便 | 通院支援してくれる介護者がいない | 金銭的負担が大きい | 病院に行くのが身体的（精神的）に困難 | 特に負担はない | その他   | 全体    |
|-------|---------|------------------|-----------|--------------------|---------|-------|-------|
| 男性    | 80歳未満   | 20               | 17        | 6                  | 10      | 4     | 36    |
|       |         | 55.6%            | 47.2%     | 16.7%              | 27.8%   | 11.1% | 8.3%  |
|       | 80歳代    | 17               | 10        | 1                  | 7       | 9     | 4     |
|       |         | 48.6%            | 28.6%     | 2.9%               | 20.0%   | 25.7% | 11.4% |
| 90歳以上 | 17      | 6                | 0         | 3                  | 6       | 2     | 26    |
|       |         | 65.4%            | 23.1%     | 0.0%               | 11.5%   | 23.1% | 7.7%  |
| 合計    | 54      | 33               | 7         | 20                 | 19      | 9     | 97    |
|       | 55.7%   | 34.0%            | 7.2%      | 20.6%              | 19.6%   | 9.3%  |       |
| 女性    | 80歳未満   | 8                | 9         | 2                  | 4       | 8     | 2     |
|       |         | 34.8%            | 39.1%     | 8.7%               | 17.4%   | 34.8% | 8.7%  |
|       | 80歳代    | 60               | 30        | 11                 | 26      | 43    | 22    |
|       |         | 43.5%            | 21.7%     | 8.0%               | 18.8%   | 31.2% | 15.9% |
| 90歳以上 | 21      | 10               | 5         | 15                 | 22      | 5     | 58    |
|       |         | 36.2%            | 17.2%     | 8.6%               | 25.9%   | 37.9% | 8.6%  |
| 合計    | 89      | 49               | 18        | 45                 | 73      | 29    | 219   |
|       | 40.6%   | 22.4%            | 8.2%      | 20.5%              | 33.3%   | 13.2% |       |

表5 性別・年齢と買物の困りごと（多重回答）

|       | 場所が遠い | 交通手段がない | 一度にたくさん買えない | その他   | 全体    |     |
|-------|-------|---------|-------------|-------|-------|-----|
| 男性    | 80歳未満 | 18      | 12          | 7     | 16    | 37  |
|       |       | 48.6%   | 32.4%       | 18.9% | 43.2% |     |
|       | 80歳代  | 14      | 8           | 8     | 13    | 33  |
|       |       | 42.4%   | 24.2%       | 24.2% | 39.4% |     |
| 90歳以上 | 12    | 9       | 6           | 9     | 26    |     |
|       |       | 46.2%   | 34.6%       | 23.1% | 34.6% |     |
| 合計    | 44    | 29      | 21          | 38    | 96    |     |
|       | 45.8% | 30.2%   | 21.9%       | 39.6% |       |     |
| 女性    | 80歳未満 | 6       | 10          | 9     | 10    | 24  |
|       |       | 25.0%   | 41.7%       | 37.5% | 41.7% |     |
|       | 80歳代  | 62      | 53          | 36    | 46    | 129 |
|       |       | 48.1%   | 41.1%       | 27.9% | 35.7% |     |
| 90歳以上 | 18    | 22      | 17          | 27    | 54    |     |
|       |       | 33.3%   | 40.7%       | 31.5% | 50.0% |     |
| 合計    | 86    | 85      | 62          | 83    | 207   |     |
|       | 41.5% | 41.1%   | 30.0%       | 40.1% |       |     |

51.4%、80歳代では「買物」57.1%、90歳以上では「自身や家族の病気のこと」が50.0%と割合が高い。女性の場合、80歳未満では「買物」「掃除、洗濯」ともに45.8%、80歳代では「買物」42.8%、90歳以上では「自身や家族の病気のこと」が47.5%と割合が高い（表6）。また、自由記述でも、「巡回販売車が週1回まわってきてくれる」「隣近所の知人、友人が食事を持ってきてくれたり、家事を手伝ってくれる関係性」等の記述があった。

買物や食事の支度などの家事に関する困りごとが上位をしめており、家事支援の介入が必要であると思われる。なお、「食事の支度」「外出」「頼れる人がいない」に関しては、年齢（3カテゴリー）とのカイ2乗検定の結果、有意差がみられた（漸近有意確率は、0.0189, 0.0489, 0.0034）。

このように、男女ともに買物や外出に困っている割合が高い現状であるが、外出に関しては不思議なことに年齢を増すごとに割合が減少している。この結果は、年齢

を増すごとに一定以上の距離のある場所への自立的な外出が少なくなることが背景にあるのではないだろうか。

本人が日常生活で不安なことや心配なこととしては、男女ともに、健康・病気が最も多い。80歳未満の特徴としては、「頼れる人がいない」が男性の場合33.3%、女性の場合26.1%を占めていた。「家事が大変」も性別、年齢を問わず比率が比較的高かった（表7）。

## 5. まとめ

今回、B地域3市において、調査票の記入がなされた対象者数は、男性98名、女性222名、計320名であった。平均年齢は、84.9歳であった。

認知症自立度の分布からは、ある程度の認知能力がないと在宅生活は困難であることが示唆される。他方、障害高齢者自立度の分布からは、身体的自立度が低くても、本人の工夫並びに在宅支援があれば、独居生活が可

表6 性別・年齢と日常で困っていること（多重回答）

|    | 家の維持管理 | 食事の支度       | 買物          | 外出          | ゴミ出し        | 掃除、洗濯       | 経済的な問題      | 自身や家族の病気のこと | その他         | 特にな         | ない          | 全体  |
|----|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 男性 | 80歳未満  | 9<br>24.3%  | 20<br>54.1% | 19<br>51.4% | 19<br>51.4% | 14<br>37.8% | 17<br>45.9% | 12<br>32.4% | 15<br>40.5% | 3<br>8.1%   | 4<br>10.8%  | 37  |
|    | 80歳代   | 4<br>11.4%  | 15<br>42.9% | 20<br>57.1% | 11<br>31.4% | 14<br>40.0% | 17<br>48.6% | 2<br>5.7%   | 16<br>45.7% | 9<br>25.7%  | 2<br>5.7%   | 35  |
|    | 90歳以上  | 5<br>19.2%  | 8<br>30.8%  | 12<br>46.2% | 8<br>30.8%  | 5<br>19.2%  | 8<br>30.8%  | 0<br>0.0%   | 13<br>50.0% | 2<br>7.7%   | 1<br>3.8%   | 26  |
|    | 合計     | 18<br>18.4% | 43<br>43.9% | 51<br>52.0% | 38<br>38.8% | 33<br>33.7% | 42<br>42.9% | 14<br>14.3% | 44<br>44.9% | 14<br>14.3% | 7<br>7.1%   | 98  |
| 女性 | 80歳未満  | 7<br>29.2%  | 8<br>33.3%  | 11<br>45.8% | 9<br>37.5%  | 6<br>25.0%  | 11<br>45.8% | 4<br>16.7%  | 10<br>41.7% | 5<br>20.8%  | 3<br>12.5%  | 24  |
|    | 80歳代   | 29<br>21.0% | 36<br>26.1% | 59<br>42.8% | 44<br>31.9% | 45<br>32.6% | 44<br>31.9% | 13<br>9.4%  | 53<br>38.4% | 20<br>14.5% | 26<br>18.8% | 138 |
|    | 90歳以上  | 13<br>22.0% | 13<br>22.0% | 19<br>32.2% | 15<br>25.4% | 15<br>25.4% | 24<br>40.7% | 6<br>10.2%  | 28<br>47.5% | 7<br>11.9%  | 12<br>20.3% | 59  |
|    | 合計     | 49<br>22.2% | 57<br>25.8% | 89<br>40.3% | 68<br>30.8% | 66<br>29.9% | 79<br>35.7% | 23<br>10.4% | 91<br>41.2% | 32<br>14.5% | 41<br>18.6% | 221 |

表7 性別・年齢と日常生活において不安なこと、心配なこと（多重回答）

|    | 健康、病<br>気 | 収入が少<br>ない   | 介護が必<br>要   | 頼れる人<br>がいない | 家事が大<br>変   | 財産や暮<br>の管理 | 金銭管理<br>が苦手 | その他        | 特にな         | ない          | 全体  |
|----|-----------|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-----|
| 男性 | 80歳未満     | 24<br>66.7%  | 8<br>22.2%  | 7<br>19.4%   | 12<br>33.3% | 11<br>30.6% | 4<br>11.1%  | 4<br>11.1% | 6<br>16.7%  | 2<br>5.6%   | 36  |
|    | 80歳代      | 24<br>68.6%  | 0<br>0.0%   | 5<br>14.3%   | 6<br>17.1%  | 11<br>31.4% | 2<br>5.7%   | 3<br>8.6%  | 5<br>14.3%  | 3<br>8.6%   | 25  |
|    | 90歳以上     | 20<br>80.0%  | 2<br>8.0%   | 2<br>8.0%    | 3<br>12.0%  | 5<br>20.0%  | 1<br>4.0%   | 1<br>4.0%  | 3<br>12.0%  | 2<br>8.0%   | 26  |
|    | 合計        | 68<br>70.8%  | 10<br>10.4% | 14<br>14.6%  | 21<br>21.9% | 27<br>28.1% | 7<br>7.3%   | 8<br>8.3%  | 14<br>14.6% | 7<br>7.3%   | 96  |
| 女性 | 80歳未満     | 20<br>87.0%  | 2<br>8.7%   | 4<br>17.4%   | 6<br>26.1%  | 7<br>30.4%  | 1<br>4.3%   | 3<br>13.0% | 4<br>17.4%  | 1<br>4.3%   | 23  |
|    | 80歳代      | 89<br>65.4%  | 12<br>8.8%  | 14<br>10.3%  | 19<br>14.0% | 29<br>21.3% | 7<br>5.1%   | 9<br>6.6%  | 24<br>17.6% | 24<br>17.6% | 136 |
|    | 90歳以上     | 44<br>75.9%  | 5<br>8.6%   | 10<br>17.2%  | 5<br>8.6%   | 14<br>24.1% | 6<br>10.3%  | 5<br>8.6%  | 8<br>13.8%  | 9<br>15.5%  | 58  |
|    | 合計        | 153<br>70.5% | 19<br>8.8%  | 28<br>12.9%  | 30<br>13.8% | 50<br>23.0% | 14<br>6.5%  | 17<br>7.8% | 36<br>16.6% | 34<br>15.7% | 217 |

能であることが示唆される。

地域での支えあいについては、年齢、性別により差はあるが、「機会を作ったの安否確認」がなされている割合が高く、さりげない支援が望まれている様子が伺えた。

在宅医療の体制については単に救急病院が足りないのか、利便性に課題があるのか、緊急通報装置等、ハード面の整備が必要なのか等、検証していく余地がある。

今回の調査は介護支援専門員に記入してもらっているため、独居高齢者の日常の困りごとに関する判断の適切さには一定の限界があると言えるが、以下のような傾向が見られた。日常の困りごとに関して、買物や食事の支度などの家事に関する困りごとが上位を占めており、家事支援の介入が必要であると思われる。性別では80歳未満の男性では「食事の支度」「買物」「外出」の比率が比較的高いのに対し、80歳未満の女性では「買物」「掃除、

洗濯」の比率が比較的高かった。なお、年齢が増すことによって「外出」「買物」の困りごとの割合が減少しているのも特徴的であった。

今後、独居生活を継続するためには家事能力や社会性等の複雑な要因が関わること、男性と女性のニーズに違いが見られることを念頭におきつつ、地域性や性別及び年齢に合わせた生活支援、公的支援、地域支援等を展開していく必要がある。

#### 謝辞

最後に、今回の調査研究に関しまして、協力してくださいましたB地域3市の介護支援専門員の方々に深く感謝申し上げます。

#### 文献

古川恵子・本間俊雄(2013)。「一人暮らし高齢者の生活を支えるコミュニティに関する研究(2)」【南九州地域科学研究所

- 報], (29): 21-29.
- 本田亜紀子・斉藤恵美子・金川克子・村嶋幸代 (2003). 「一人暮らし高齢者の特性—年齢および一人暮らしの理由による比較から」『日本地域看護学会誌』, 5 (2): 85-89.
- 鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科 (2017). 「2017年度清水基金大学院プロジェクト研究報告書 過疎地域における地域包括ケアのあり方について—生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加」鹿児島: 鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科.
- 大園昭博・中山慎吾 (2017). 「一人暮らし高齢者の調査項目に関する一考察」『鹿児島国際大学大学院学術論集』, (9): 95-100.
- 棚橋昌子 (1999). 「介護保険制度に関する一考察: 一人暮らし高齢者の実態調査から」『愛知淑徳短期大学研究紀要』, (38): 131-147.